

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成21年2月24日

【評価実施概要】

事業所番号	2872800293		
法人名	有限会社ほおずき		
事業所名	グループホームCHIAKIほおずき播磨		
所在地	(〒675-0159) 兵庫県兵庫県加古郡播磨町東添2丁目18番6号		
	電話	078-949-1566	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区萩乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成21年1月19日	評価確定日	平成21年2月24日

【情報提供票より】〔平成20年12月26日 事業所記入の同書面より要点を転記〕

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年1月15日		
ユニット数	2ユニット (利用定員…計17人)		
職員数	15人	(常勤13人) (非常勤2人)	/ 常勤換算12.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	地上2階建て建物の1、2階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000円	その他の経費(月額)	23,000円
敷金の有・無	有り (円) ・ (無し)		
保証金の有・無 (入居一時金含む)	(有り) (300,000円) ・ 無し	(保証金有りの場合) 保証金償却の有・無	(有り) ・ 無し
食材料費	朝食	150円	昼食 350円
	夕食	350円	おやつ 50円
	または、1日あたり 900円		

(4) 利用者の概要 (平成20年12月26日現在)

利用者人数	計18名	…	(男性7名) (女性11名)
要介護1	6名	要介護2	7名
要介護3	4名	要介護4	0名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均82歳	…	(最低70歳) (最高92歳)

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	姫路診療所	上山歯科医院	明石回生病院
---------	-------	--------	--------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

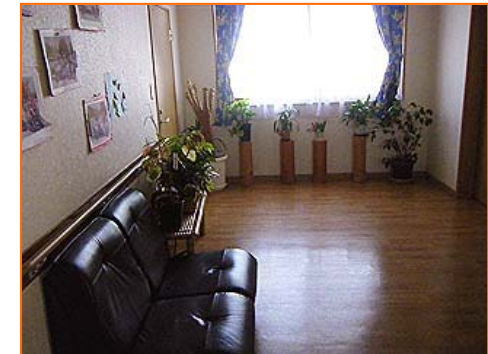
JR「土山」駅の南、徒歩約10分の静かな住宅地にある。近くの「北池」へは周辺花壇の草むしりも兼ね散歩に出かけることも多く、利用者は、飛来する渡鳥や草花を楽しみ、「季節」を感じながら生活されている。食事については、スーパーへの食材の買物、調理、後片付けを、利用者それぞれの力が発揮できるよう支援し、全て手作りで提供している。バス旅行(家族同行)・お花見・紅葉狩などの季節行事や、日常的には外出の機会(外食・カラオケ・映画・喫茶店…)を多く持ち、「楽しみごとの支援」にも尽力している。周辺住民との交流機会も増え、地域の一員として町に馴染んでおり、「隣近所とのお付き合い」も深まっている。“アットホーム”を大切にしている。 ◎参考までに資料写真(前回と前々回の評価訪問時に撮影)を添付

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目：第三者4) 全職員が自己評価に関わることで職員の資質向上を期待したが、まだ、職員全員に効果をみただけではない(次年度の評価に向けては取り組みを期待したい)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目：第三者4) 主任・計画作成担当者が自己評価を行い、管理者がまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目：第三者4, 5, 6) 運営推進会議は定期的(2ヵ月ごと)に開催し、ホームの現状・行事予定・研修実績などの報告を行いサービス向上に活かしている。出席者の意見が、利用者家族による講演会「家族から見た認知症(体験談)」を開催につながった。現在、地域包括支援センターに協力を願い、家族と地域住民を対象とした成年後見制度の研修を計画している。認知症サポーター研修についても、会議の機会に関係者に協力を頂くなどして、開催してもらいたい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目：第三者7,8) 毎月発行の『ほおずき通信』と一緒に、個々の利用者の暮らしぶりについてもそれぞれに手紙で報告している。家族等の来訪時には、必ずコミュニケーションをとり、意見や要望を気軽に言える関係づくりを心掛けている。ご家族からの意見は、月1回の全体会議で議題として取り上げ、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目：第三者3) ご近所から、畑で取れた野菜や果物を頂戴したり、地域行事には利用者と職員が参加するなど日常的に交流している。月1回の自治会のサロン「あすなろ」に職員が有識者ボランティアとして出席するなどし、地域住民から介護相談を受けるなど、地域福祉に貢献している。



▲ 食事を楽しむ支援（菜園で野菜を育て食卓に…）



▲ ホーム自慢の車椅子
「阪神タイガース」赤星選手の寄贈



▲ その人らしい暮らしの支援
訪問した日(H19.12)も、利用者の男性が
自慢のカレーを調理してくださった…



▲ 居心地の良い共有空間づくり



▲建物外観



▲散歩コース（渡り鳥が飛来する「北池」）



玄関周辺▲

▼開放感のある和室スペース



▲ゆったりした共有空間（壁には入居者の作品を飾り、温かな雰囲気作りを…）

2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『笑顔、あいさつ、思いやり』の理念のもとに、“利用者が地域住民といつも笑顔であいさつができる”自然体の生活を支えている。ホーム名には、赤い実を大切に包みこむ『ほおずき』のように、利用者と職員とそれぞれの家族を思いやり、包み込む家庭でありたいとの願いが込められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に基本理念、基本方針、施設テーマを唱和して共有を図っている。その日の行事、受診等が安全に行われ、利用者の『笑顔』が見られるよう、目標をかけた日々取り組んでいる。	○	理念にある『思いやり』について職員と話す機会をもち、それぞれの職員の『思いやり』を育てたいという管理者の思いがある。今後の取り組みに期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の住民から、畑で取れた野菜や果物を頂戴したり、植木の手入れや消毒なども手伝ってもらっている。自治会の秋祭りでは、神輿をホーム玄関先まで入れてもらっている。地域行事の北池の水落としへの参加や、利用者がボランティアとして北池の花壇の草むしりをするなど、近隣の方と交流する機会を多くもっている。	○	地域の小・中・高校等へ『ほおずき通信』を配布して、交流のきっかけにされてはどうか。地域密着型サービスの啓発について、町内の掲示板を活用してみてもどうか。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、主任、ケアマネジャー、計画作成担当者ら数人での取り組みを行っているが、職員全員での取り組みには至っていない。	○	評価を活かして、改善に向けて前向きなホームなので、共通の認識をもって職員全員で進めていってほしい。次回の評価時にはその成果を期待する。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や話 し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に 活かしている	定期的に会議を開催し、ホームの現状・行事予定・ 研修実績などの報告を行っている。利用者代表・家 族代表・地域代表・地域包括支援センター職員が参 加し、意見の交換を行い、サービスの向上に活か している。今後は、地域包括支援センターと連携して、 利用者と家族の要望に応じ、権利擁護などの学習も 行っていく予定。	○	ホームの状況報告と地域情報交換に加え、学習会 や認知症サポーター研修を開催するなどして、また、 出席者にもご協力も得ながら、地域に認知症につ いての理解を深めて頂くための企画も検討してもらいた い。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外に も行き来する機会をつくり、市町とともにサー ビスの質の向上に取り組んでいる	グループホームの入居に関して播磨町の担当者との 情報交換を行っている。	○	利用者の生活の様子や地域交流の活動を報告する など、市との連携の機会をより多くもらいたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、 金銭管理、職員の異動等について、家族等に定 期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月『ほおずき通信』を発行している。ホームでの利 用者の暮らしぶりを写真とともに手紙で報告してい る。金銭管理については、預かり金の出納とともにレ シートの送付を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運 営に反映させている	ご家族様からの意見は、各職員から管理者に伝えて おり、月1回の全体会議で職員全員から改善計画を 募り、運営に反映させている。ホームページにも、意 見、要望が表出できる窓口を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員に よる支援を受けられるように、異動や離職を必 要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利 用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動・離職はほとんど無く、日々馴染みの関 係ができています。職員全員がホーム全体の現状を把 握できるよう、4ヵ月ごとに、1階・2階の職員配置の 入れ替えてを行っているが、その際も利用者へのダ メージがないよう配慮している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社主催の研修や、全体会議、施設長・主任研修、新人研修、エリア別研修会などを行なっている。マイチャレンジ制度では、目標管理とメンタル面でのサポートも行なっている。月1回のホーム内研修の内容については、職員アンケートをとり、職員の『知りたいこと』『不安なこと』を研修内容に組み入れている。介護現場で必要とされる医療知識についての研修も積極的に実施している。	○	薬剤師に協力をお願いし、医療知識の研修テーマに、「服薬」に関してのものを取り入れてはどうか。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2市2町グループホーム協会の勉強会に参加したり、ほおずきのグループ内でも加古川・明石エリアでの勉強会を行なっている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスを併設していることもあり、入居申込み時には、いつでもホームに遊びに来て頂いたり、また、デイサービスの利用も勧め、馴染んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や買い物、掃除など一人ひとりの力を活かしながら、一緒に家事を行っている。利用者からも教わり、お味噌づくりや餅つきを行ったり、『思いやり』のころを学ばせてもらっている。成人式を迎えた職員が、晴れ着で来訪して利用者に成人式を祝ってもらい、利用者一人ひとりと記念写真を撮影するなど喜怒哀楽を共にしている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを 期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画の中に本人の言葉や思いを具体的に記入できるようになっており、これを実践している。思いの把握が困難な場合は、家族から利用者の習慣や得意なことなどを聴き取り、思いにそえるように努力している。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や職員の持つ情報を1つにまとめながら、「本人の力」や「本人の思い」を見つけていくために、センター方式を採用している。利用者の日々の暮らしぶりのなかで、その人らしさを大切にしたい介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは、定期的(概3ヵ月に1度)に実施している。日々のエピソードを記入して、それをもとに「気づき」や「ヒヤリハット項目」をケース会議で共有することで、新たな計画作成において、本人の変化や思いを反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居を希望されている方に対しては、併設のデイサービスの利用を勧めている。雰囲気慣れていただき、入居による急な生活の変化を、緩和できるように支援している。入居後もデイサービスの馴染みの職員や友人と交流できる機会を設けている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関が救急指定の総合病院であり、かかりつけ医になっている方に関しては訪問診療を行っている。また、本人や家族が希望すれば、入居前のかかりつけ医との関係を継続していただいている。訪問歯科も利用しており、治療後は歯科衛生士による口腔ケアを実施している。眼科その他については協力医療機関や、近隣の医療機関を利用している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したり、入院することになった場合は、ホームの「出来ること」「出来ないこと」をご家族に十分に理解して頂き、家族や主治医との話し合いをしっかりと持ち支援するよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりの行動パターンを把握し、言葉その他、接し方について、誇りを傷つけたり、プライバシー侵害しないよう気を付けている。個人情報については守秘義務を契約書に明記し、ご家族に同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのライフスタイルを尊重して、体操や、散歩、掃除、食事作り、入浴などについても本人のペースを大切にしている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ること、盛り付け、味見…等々、一人ひとりの力を活かしながら、利用者と職員が楽しく食事の準備をし、片付けも一緒に行っている。お酒は、常時希望される方がないので行事の際にお出ししている。手作りのお味噌やうどん、パン作りなどは、利用者に調理を教わりながらチャレンジしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に沿えるように入浴を支援している。入浴剤を使用したり、菖蒲湯、ゆず湯などを楽しんでいる。浴室では、利用者と「1対1」になることもあって、普段とは違ったコミュニケーションの機会になっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑の管理や包丁とぎをお願いしたり(元大工をされていた利用者)、雑巾縫いなど、趣味や生活歴を活かした役割をもてるように支援している。播磨町ボランティア団体と連携して、園芸やアニマルセラピー、音楽療法などを実施したり… 近隣の方が銭太鼓を披露して下さったり…と、楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日帰り旅行、遠足などの外出の機会を年間行事に計画している。日常的にも、散歩や買い物、外食、ご家族との外出などができるように支援している。外食後には、カラオケに行ったり、映画を見に行ったりすることもある。誕生日は、職員が付き添い希望される所に外出できるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が、鍵をかけることの弊害を理解して、鍵をかけないケアに取り組んでいる。利用者の安全面に気を配り、利用者の様子を把握することや所在確認を行っている。出入り口は、出入りがわかるように、チャイムが鳴る工夫をしている。夜間については防犯上施錠をしている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを 期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内設備として、簡易スプリンクラー、火災報知機、自動通報装置を設置している。避難訓練を計画的(年2回)に実施し、近隣の方々へも常々ご協力をお願いしている。災害時に対応できるように、職員は消防署の救命講習を受講している。今後の課題として、夜間等、様々な時間に対応できる消防訓練の実施も検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの普段の食事摂取量を把握している。水分摂取についても、ココアや梅こぶ茶など好みの飲み物を提供している。夜間はペットボトルにお茶をいれ、居室でも水分がとれるようにしている。体調不良時や食事や水分管理が常時必要な利用者については、摂取量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには花を植え、庭では季節の野菜などを育てている。トイレや共有部分にもさり気なく一輪挿しの花を生け季節を感じてもらえるようにしている。リビングでは昔の音楽をBGMとして流している。窓際には観葉植物やソファを置き、気の合う利用者同士が会話を楽しむなど、心地よく過ごせる空間づくりを心掛けている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みや生活習慣を大切にするために、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたベッドや家具、仏壇などを持ち込んでもらい、自身の住まいとして心地よく過ごせるようにしている。写真や作品を自由に飾ってもらうなど、自身の好みで工夫してもらっている。入居日に、表札を自筆で書いてもらっている。		

※  は、重点項目。